

ヒューマン 上田

ヒューマン上田とは…

Humanとは、「人間の」とか「人間的」と訳されます。
一人ひとりの人権を大切にする明るい上田市であることを願い、
名付けられました。



「みんなであらえばたのしいじゃん」 中塩田小学校 六年 伊藤 未結

特集

誰もが自分らしく生きられる
社会を目指して
～同性婚を取り巻く現状から
人権を考える～

もくじ Contents

- 特集 誰もが自分らしく生きられる社会を目指して
～同性婚を取り巻く現状から人権を考える～…………… 2
- 上田市人権啓発推進委員会活動紹介…………… 4
- 最優秀人権啓発作品…………… 6

特集

誰もが自分らしく生きられる社会を目指して ～ 同性婚を取り巻く現状から人権を考える ～



幸せを求めることは



すべての人が等しく持っている権利です。

LGBT^{注1}の理解が少しずつ進む中で、同性婚(同性同士の婚姻)の話題を耳にするようになりました。

「性的指向」は、個人によって異なります。幸せになりたいという願いは、性的指向にかかわらず誰もが同じように持っています。婚姻を通じて幸せを求めることはすべての人が等しく持っている権利です。



法的婚姻を望む同性カップルに対して、「同性の婚姻制度がなくても、一緒に住むだけでいいでしょう」という人もいます。しかし異性カップルに認められている婚姻による権利と、婚姻が認められていない同性カップルに対応するパートナーシップ制度上の権利には、大きな差があります。

パートナーシップ制度と婚姻の違い

パートナーシップ制度は、婚姻の対象にならない同性カップルが様々な行政サービスや社会的配慮等を受けやすくする制度です。しかし、現状は法律上の婚姻と同じ権利は認められていません。

※長野県でのパートナーシップ制度は令和5年8月から導入されました。

| | パートナーシップ制度 | 法律上の婚姻 |
|----------|------------|--------|
| 治療や手術の同意 | ○ | ○ |
| 公営住宅への入居 | ○ | ○ |
| 税金の配偶者控除 | × | ○ |
| 財産の相続 | × | ○ |
| 遺族年金 | × | ○ |
| 子の親権 | 一方のみ | 共同親権 |

割れる司法の判断

同性婚を認めていない現在の法規定は、憲法に照らして合憲か違憲か司法の判断も割れています。

| 地方裁判所名 (判決日) | 札幌 (21年3月) | 大阪 (22年6月) | 東京 (22年11月) | 名古屋 (23年5月) | 福岡 (23年6月) |
|---------------------------|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|
| 法の下での平等 憲法14条 | 違憲 | 合憲 | 合憲 | 違憲 | 合憲 |
| 婚姻の自由 憲法24条1項 | 合憲 | 合憲 | 合憲 | 合憲 | 合憲 |
| 個人の尊厳を重視した立法義務 憲法24条2項 | 合憲 | 合憲 | 違憲状態 | 違憲 | 違憲状態 |

※「違憲状態」とは法律や制度などが憲法の趣旨(目的)に反している状態。
 ※「違憲」とは法律や制度などが憲法の規定に違反すること。憲法違反。

注1 LGBT

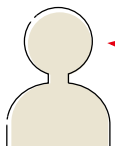
レズビアン(同性を好きになる女性)、ゲイ(同性を好きになる男性)、バイセクシャル(両性を好きになる人)、トランスジェンダー(生物学的・身体的な性、出生時の戸籍上の性と性自認が一致しない人)の頭文字をとったもの。「LGBT」という言葉と上記4つのありに限らない性的マイノリティの総称として用いるのが一般的。(出典 厚生労働省「II. 職場と性的指向・性自認をめぐる現状」)

\\ ご存じでしたか？日本だけだということ \\

G7 (主要国首脳会議) の中で、同性婚が認められていないのは日本だけです。国により歴史や文化に違いはありますが、日本はこのままでいいのでしょうか。

世論の動向を見てみましょう。

世論の動きは…



同性婚に賛成

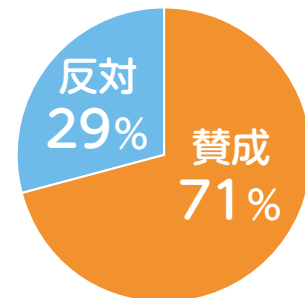
- 誰にでも平等に結婚する権利があるから。
- 婚姻で得られる行政サービスの一部が受けられないなどの不平等が解消されるから。

同性婚に反対

- 婚姻は子を産み育てることを前提としている制度だから。
- 伝統的な家族のあり方が失われるから。



「同性婚は認める方がよい」



(共同通信社調べ：2023年3～4月
18才以上の全国3000人を対象にした
世論調査)

このような日本の状況を当事者の皆さんは
どう感じ考えているのでしょうか。
ダイバーシティ信州代表 小泉 涼さんにお聞きしました。



- ◇ 性の問題は見えにくく、分かりにくく、話しにくいけれど、自分の身近に悩み、苦しんでいる人がいることを知ってほしいです。
- ◇ 周りに苦しい思いをしている人がいることに気づくことのできる感覚を持ってほしいです。
- ◇ 誰にも幸せになる権利があります。同性婚が認められることで当事者は幸せになりますが、当事者以外は大きな変化がありません。現に同性婚が認められている国や地域も社会は持続しています。同性婚を極度に恐れることはありません。

※ダイバーシティ信州はさまざまな「違い」を尊重して受け入れ、多様な人が生きやすい世の中を実現していくためのきっかけを長野県内で提供していく事を目標に活動している団体です。

今では自らの意志で性的指向を決定したり変更したりできないことが理解されてきています。

生まれる場所や時代を私たちが選べないのと同じです。

好きになる相手が同性であるために苦しんでいる人が現実にはいます。みんなで考えていく人権課題ではないのでしょうか。

あなたは
どう考えますか？

いのち・愛、そして絆を大切に作るまちづくり 上田市人権啓発推進委員会 令和5年度の活動紹介

上田市人権啓発推進委員会は、各団体の代表や自主的に入会した約110名の市民で構成されています。当委員会では、お互いの人権を尊重し、あらゆる差別をなくそうと学習や市民への啓発活動を行っています。より多くの皆様に当委員会を知って参加していただきたく、この1年間の主な活動をご紹介します。



上田市人権啓発推進委員会 会長 土屋 彰

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、私たちは自分の責任でコロナと上手につきあっていくことが求められるようになりました。

そのような社会情勢の変化の中で、上田市人権啓発推進委員会では、今までの活動に一工夫しながら、「人権を考える市民のつどい」や「人権啓発担当者研修会」などを開催したり、街頭啓発活動を実施したりしてきました。

私はこれらの活動の中で、自分の考えの古さを実感したことがあります。自分が今まで経験したことを基にして新たな事柄にぶつかったときに、その時々への対応の仕方を見て躊躇したり足踏みをしたりして、自分自身に活を入れたりしなければ

き出せないこともありました。その時は、まず自分がかわいしい大事だとの思いを強く持ちました。それと同時に、「待てよ、自分には経験のない感情や心が揺さぶられる思いも十分理解しているだろうか」と考えさせられました。人は誰でも自分が大事、でもそれと同様に他の人も自分が大事と考えている、そんな当たり前のことから目を背けていたのではないだろうかと感じたのです。

人権のことを考えて活動しているつもりの方がこれから行動するとき、金子みすゞの詩『わたしと小鳥とすずと』の「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」の言葉を心に行動しようと考えている毎日です。今回の特集をきっかけに皆さんも立ち止まって考えてみていただけたら嬉しいです。

委員研修

令和5年7月13日

今年度は4年ぶりに視察研修が行われ、満蒙開拓平和記念館(下伊那郡阿智村)へ行って来ました。

館内を見学し、語り部の仲田武司さんのお話を聞きました。

仲田さんは、小学1年生から6年生まで開拓団として家族で満州へ渡り生活をしました。満州へ渡った理由、当時の生活の様子、現地の人々との関係など話されました。そして、終戦により集団自決を決めましたが、父親の知り合いの中国人に「死んではいけない」と言われ、避難して日本に帰国しました。親戚から「よく帰って来た」と言われ、学校へ通うこともできました。

仲田さんは過去の記憶が曖昧で、想像で語ることはできないと語り部を断っていましたが、館長に現地へ行って自分の目で確かめるようにすすめられ、現地で、自決をとめてくれた中国人の息子さんと再会し、亡くなった同級生のためにも語り継ぐことを決めたそうです。

最後に「平和を守るには武器はいらない」と話されました。語り部も減り、後世にどう伝えるかが今後の課題です。平和の尊さを考える研修会でした。



人権を考える市民のつどい

令和5年10月12日



俳優・タレントとして活躍されている副島淳さんをお迎えして「ちがいを楽しむ」と題し講演をいただきました。

副島さんは日本とアメリカのミックスルーツの方です。小学生の時に他の人とは身体的なちがいがあることでとてもひどいじめを受けました。

様々なちがいを持って生まれたことで、苦しむこともありました。自分

を守るため感情を表に出さず、何もせず、相手と戦うことをせず、必死に過ごしていた様子をお話してくださいました。「母の『生まれた時から他の人とはちがう特別な存在。そのちがいに助けられる時がきっと来る。』という励ましの言葉と、バスケットボールやまわりの人々との出会いが大きく可能性を広げてくれました。」と、爽やかな笑顔で伝えていただきました。

3階までいっぱいになった客席の皆さんが、温かく清々しい気持ちで満たされた講演となりました。

また、「市民へのアピール」は、「おけまる食堂実行委員会」の各高校生の皆さんが、日頃取り組まれていることも食堂・多世代交流・学習支援・フードドライブなどの活動について報告をしてくださいました。



人権週間～街頭啓発～

令和5年12月4日

世界人権宣言は、「自由」と「尊厳」を「平等」に守っていくための世界的なルールです。1949年12月10日に採択されました。毎年12月4日から10日までを「人権週間」とし、全国的に人権に関わる様々な活動を展開しています。

12月4日上田駅前など市内3か所で、人権擁護委員や人権に関わる団体の方々と共に、人権週間のパンフレットとカイロ袋を往来する人々に手渡しました。

「おはようございます。人権週間です。」「寒いですからカイロをお使いください。」などと言葉を添えると気持ちの良い笑顔が返ってきました。

漫画家のやなせたかしさんがデザインした人権イメージキャラクター「人KENまもる君」や「人KENあゆみちゃん」も手を振ってアピール。思いやりの気持ちが通い合う活動になりました。



人権啓発担当者研修会

令和5年11月25日

市内教育関係団体、女性団体、障がい者福祉団体等の人権教育担当者104名が参加して、「思い込みから思いやり」をテーマに「人権のヒント 地域編」(男女の人権、障がい者の人権、部落差別、身近な人権)のDVDを視聴した後、6つの分散会で様々な人権課題について話し合いました。

分散会ではDVDの内容から、男女の人権についてはお互いの生き方を尊重して思いやることが大切なこと、部落差別については正しく理解していくことが必要なことなどが話され、DVDの内容以外でも外国籍の方との関わり方やヤングケアラーの問題など参加者が日頃感じている様々な人権についての思いを語り合いました。

参加者からは「同和教育について知らないことや障がい者との接し方について学ぶことができて参加して良かった。」という感想も聞かれました。



人権作品審査

令和5年12月6日～令和6年1月9日

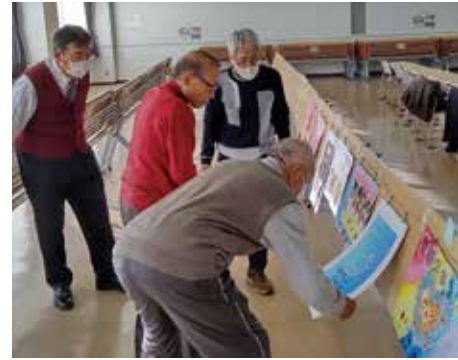
今年の作品募集には、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、一般の皆様からポスター、作文、詩・短歌、標語など1600点近くの作品を寄せていただきました。

人権作品の募集は、年代を超えて多くの皆さんに人権尊重への理解を深めていただくことを願って行っている事業です。

ポスターの審査会場では、「私たちにはない、若い人たちの感覚や発想を大事にしたいね。」との審査員の発言に続いて審査が始まりました。

また、作文等の審査会場では、静寂の中深くうなずきながら作品を読んでいる審査員の姿や、作品の内容に感銘を受けた審査員の「オー」という声が印象に残りました。

入選作品は上田市のこれからの人権啓発に活用させていただきます。応募していただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。



うえだ人権フェスティバル

令和6年2月23日

今年は上田文化会館で開催しました。子どもたちや一般の方から募集した人権作品の中から選ばれた作品を展示し、最優秀賞受賞作品については表彰式と発表会を行いました。子どもたちの学びの様子が伝わってくる発表会でした。

人権講演会は、大阪市立大空小学校初代校長のきむらやす木村泰子さんをお迎えし、「『みんなの学校』が教えてくれたこと」と題して講演をいただきました。最初に「人権を視点に、子どもの事実から『人権』を問い直しませんか」と話され、会場とのやりとりを交えながらの講演でした。「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」という教育理念のもと、「自分がされていやなことは人にはしない、言わない」という約束を、すべての子どもと教職員が実行することを基盤に取り組んでこられた様子からは、揺るぎない「人権感覚」を感じました。大空小学校の実践は、子どもたちだけでなく、大人・地域・社会でも大切なことだと感じました。



令和5年度 人権作品 最優秀賞



▲うえだ人権フェスティバルで表彰式が行われました。(令和6年2月23日)

上田市人権啓発推進委員会では、多くの方々に人権尊重への理解を深めていただくため、毎年、上田市教育委員会とともに人権作品(作文・詩・標語・ポスター)を募集しています。

今年度も小中学生を始め、たくさんの方々に応募していただきました。その中から最優秀賞に選ばれた作品の一部を紹介します。

作文の部

一人のためにできること

依田窪南部中学校 一年 藤田 千愛

私には祖母が一人います。祖母は結構高齢で物忘れもかなり激しくなってきました。友達のおばあちゃんを見て、うらやましいと思うこともしばしばありますし、テレビなどで若くて、しっかりしているおばあさんたちが出てくると、

「私もこんなおばあちゃんがほしかったな。」
 と思ってしまう。

数年前から、認知症がどんどん進行してきていて、時間や日付が分からなくなってしまうたり、ご飯を食べたか忘れてしまったり、私たち孫の名前をよくまちがえたりしてしまいます。母が介護しようとしても、

「このくらい自分でできる。」
 と言うこともあり、注意しても言うことをきいてもらえなくて、なるべく優しくしようと意識しても、イライラして、つい怒ってしまうことが多いです。

でも、祖母がときどき、「私はみんなの迷惑になるから、そろそろおいとましたい。」
 と言っていると、とても切ない気持ちになってきます。

人権学習で車椅子や高齢者疑似体験をやってみて、目も視野が狭く、色もはっきりと分からなくて混乱しました。服のボタンかけなども、手が思うように動かせなくて、驚きました。自分が普段できたことが急にできなくなると、自分でやりたいのにできなくて心苦しくなりました。でもその体験で祖母は毎日こうなんだなと思うと、少し祖母の気持ちが理解できたと思います。

私が小さい時に祖母はよく昔の話をしてくれました。祖母は昭和十年生まれで、幼い時に戦争を経験していて、その時の話もたまにしてくれます。祖母は昔の事をとても鮮明に覚えており、楽しそうに当時の事を話してくれる所を見て、私も祖母の思い出を大切にしたいなと思いました。

今回の人権週間、私の祖母に対する考え方が大きく変わりました。これからは、祖母の気持ちを考え、祖母にどう接してあげるべきか、なにをやってあげたらいいのかを考え直し、祖母のためにできることをたくさんやってあげたいです。

作文の部

最優秀賞 受賞者

みなであそぶと楽しいよ!

中塩田小学校 二年 津久浦芽依

友達がいて良かった

南小学校 四年 櫻井 優来

言葉の大切さ、

優しい言葉と冷たい言葉

菅平小学校 五年 高下 綾音

見えないところ

神川小学校 六年 三橋 源生

一人のためにできること

依田窪南部中学校 一年 藤田 千愛

部落差別から学んだこと

真田中学校 二年 関谷 育美

人権学習を通して学んだこと

依田窪南部中学校 三年 植原 瑞稀

人の温かさを感じられる場所

上田東高等学校 二年 望月 幸来

標語の部

ありがとう みんながいれば がんばれる

西小学校 一年 久保田 奏介

なやみごと わたしが きくよ 話してね

清明小学校 二年 春原 芽依

こまったら 助け合おうね ひとりじゃない

川辺小学校 三年 内田 みのり

自分かね やられてやなこと やめようよ

傍陽小学校 四年 堀内 英奈

その言葉 相手の気持ちを 考えよう

神川小学校 五年 山口 泰生

守りたい 思っただけじゃ 救えない

西小学校 六年 後藤 翼

思いやり 誰もが持つてる やさしい力

塩田中学校 一年 北澤 歩果

認め合い 差別を止める 第一歩

塩田中学校 二年 梅野 由絃

SNS 文は消せても 傷残る

第六中学校 三年 甲田 陽菜

多様性 一人一人が生かされる

大くわ国際高等学校 三年 一之瀬 ひかり

気づかない

見て見ぬ振りしているあなた それが差別です

敬老園 六川 剛

詩の部

「やさしい」のつぼ

西内小学校 二年 小平 葉月

二年生になって
めあてをきめた。

「かしい」

「がんばる」

「やさしい」にきめて
つぼをつくった。

「やさしい」のつぼが

さいしょは、たまらなかつた。

でも今は

どんだんたまる。

やさしいことを

見つけてできるようになった。

つぼがたまると

じぶんたちが

どんだんやさしくなったことが

わかつた。

もっとやさしくしたいな。

詩の部 最優秀賞 受賞者

けんかしてわかつたよ

東小学校 一年 松山 結花

「やさしい」のつぼ

西内小学校 二年 小平 葉月

わたしの友だち

神川小学校 三年 中澤 莉子

仲直り

南小学校 四年 逸見 俊翔

「言葉のはり」

川西小学校 五年 高橋 香寿美

一三七九グラムのぼく

東塩田小学校 六年 福澤 宇希

短歌の部

さりげない その優しさに 救われる

認め合える 多様化社会

敬老園 小林 忍

ポスターの部



えがお
東小学校 一年 谷本 英



えがお
武石小学校 三年 要 茉依



みんなであそぼう
西小学校 二年 櫛部 杏莉



助けあいみんなで幸せいつもでも
川辺小学校 四年 兒玉 美乃莉



笑顔の花をさかせよう!
豊殿小学校 五年 西澤 志穂



いろんな個性を分かち合おう
第五中学校 一年 笹川 凜



みんなが幸せな未来にするには?
第四中学校 二年 中山 いち子



言葉は刃物なんだ。
使い方間違えると厄介な凶器になる。
上田千曲高等学校 二年 島袋 イザベル

表紙について

令和5年度人権作品ポスターの部において最優秀賞に選ばれた作品です。カラフルな色づかいがみんなの気持ちを明るくしてくれる作品です。上田市人権啓発推進委員会では、市民の皆様お一人おひとりの個性が輝き、笑顔があふれる住みやすい上田市になるよう、心を一つにして人権啓発に取り組んでいきます。

上田市人権啓発推進委員会へのご意見、入会申込み(年会費500円)は事務局まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習・文化財課
TEL.23-5197